
プロジェクト リース

項目 第 462 回企業会計基準委員会で聞かれた意見

本資料の目的

1. 本資料では、第 462 回企業会計基準委員会（2021 年 7 月 28 日開催）の審議で聞かれた主な意見をまとめている。

借手の費用配分の方法に関する再検討について

関連諸法規との関係

2. 単一モデルか 2 区分モデルか選択する上では、一義的には財務諸表利用者に与える有用性という観点で判断すべきである。その結果、関連諸法規との関係において影響がある場合には、それは関連諸法規において検討すべき問題であるとする。

財務諸表利用者のニーズ

3. 財務諸表利用者においては、単一モデルか 2 区分モデルか、分析する企業の業種や分析する資産タイプによって使い分けているというのが実態であり、財務諸表利用者のニーズに照らして考えるのであれば、そういった実態を会計上どこまで対応すべきなのか、という議論と考える。
4. 財務会計基準諮問委員会（FASAC）で報告されたアウトリーチにおいて、多くのセルサイドのアナリストが米国基準における 2 区分の数値を調整しないで使用する結果は、一般にセルサイドアナリストは格付機関アナリストやバイサイドアナリストと比べて、分析レポートの提出期限がタイトであることも影響していると推察される。
5. 我が国においては、企業数や時価総額に占める割合を考えると、日本基準を適用する企業と IFRS を任意適用する企業がその大半である中で、財務諸表利用者に与える有用性や国際的な比較可能性の観点で、米国基準をあえて採り入れるというニーズはあまりないように思う。
6. 理由は利用者により様々と考えるが、単一モデルを志向する利用者が比較的多いように思う。

その他

審議事項(5)-4

7. IFRS 第 16 号の単一モデルを基礎として検討を進めることについて反対はしないが、従来オペレーティング・リースに分類していたリースについても利息費用の計上を要求することの適否については、コメント募集の対象とするかの検討も含め、慎重な検討が望まれる。

以 上